

伊豆海

協会報

一般社団法人 下田建設業協会

第 109 号

IZUMI

下田市東本郷二丁目 7 番 1 号

平成26年10月 1 日



松崎町「伊豆半島太鼓フェスティバル」

就任のご挨拶

国土交通省中部地方整備局
沼津河川国道事務所長 野坂周子



7月の人事異動で、沼津河川国道事務所長として着任いたしました。

下田建設業協会の皆様には、日頃より国土交通行政の推進に、格別の御理解、御協力を頂き、厚く御礼申し上げます。

沼津河川国道事務所は、静岡県東部・伊豆地域において、治水、砂防、海岸、道路と広域的に社会資本の整備を担当する事務所です。賀茂地域においては、この4月に伊豆縦貫自動車道下田推進室を設置し、伊豆縦貫自動車道の整備に力を注いでおります。

伊豆半島は、急峻な地形であり、降雨などの異常気象により通行規制を受ける災害に弱い道路網となっております。緊急輸送路である国道135号、136号、414号など、伊豆半島の国道の3分の1が通行規制区間であり、軸となる国道414号の一部区間は、静岡県第4次地震被害想定において、緊急輸送が可能なレベルの復旧に要する日数の目安が1週間以上と判定されました。こうした中、平成24年12月には、貴協会の御協力も得て、静岡県を初めとする関係行政機関とともに、巨大地震を想定した伊豆地域道路啓開検討協議会を設立し、南海トラフの巨大地震等、伊豆地域を含む広範囲で発生する大災害に対して、救命・救援ルートの確保を迅速かつ的確に対応するための検討に着手しました。平成25年3月には、「伊豆版くしの歯作戦」を策定し、被害が発生してから概ね三日間で、東名・新東名から沿岸部までの救命・救援ルートを確認することを目標と定めています。8月31日の静岡県総合防災訓練においては、貴協会の御協力を得て、実際の道路を活用した初めての道路啓開訓練を実施いたしました。建設業協会と連携したこのような取り組みを通じて、道路啓開における課題を明確化し、現在検討中の伊豆地域における道路啓開行動計画に反映していきたいと考えておりますので、一層の御協力を御願いたします。

また、防災面の観点のみならず、地方創生の観点からも、当地域の基軸となる伊豆縦貫自動車道の整備は不可欠です。沼津河川国道事務所では、河津下田道路の整備に精力的に取り組みとともに、天城峠を越える区間について計画段階評価に必要な調査も進めて参ります。今後とも引き続きまして、貴協会の皆様の格別な御理解と御協力を御願いたします。

10月は加入促進強化月間です

建設業界の皆様へ

建退共への加入のおすすめ

福祉の増進と企業の振興のための国の退職金制度です

- 17万建設事業所が加入、303万人の建設現場の就業者が退職金支給対象となっています。
- これまでに累計で219万件、1兆5,512億円の退職金をお支払いしています。(平成26年7月末現在)

建設工事の第一線で働く優秀な人材確保にも寄与！

制度説明動画配信中!
建設共 検索

手帳は定期的に確認しましょう

ひとり一人の、未来を支える。

50周年 建退共

建退共は建設業で働く労働者のための退職金制度です。

特長

- ◎法律に基づき運営される国が作った制度
- ◎複数の企業間を就業しても通算して退職金を支給
- ◎掛金は全額非課税(損金または必要経費に算入できます)
- ◎建退共加入は「経営事項審査」で加点評価
- ◎国からの財政上の支援(国の助成により掛金の一部が免除)

こんなに有利

掛金納付年数	掛金総額	退職金額
40年	312万円	563万円
35年	273万円	461万円
30年	234万円	372万円
25年	195万円	293万円
20年	156万円	221万円
15年	117万円	155万円
10年	78万円	94万円

●加入できる事業主
建設業を営む事業主

●対象となる労働者
建設業の現場で働く方

●掛金は一日310円
(加入労働者ひとり)

お申込・お問合せ

独立行政法人勤労者退職金共済機構 建退共 静岡県支部

〒420-0857 静岡市葵区御幸町9-9 TEL054-255-6846

建退協のホームページをぜひご覧下さい

建退共

検索

地震防災シンポジウム

巨大地震を想定した伊豆地域道路啓開検討協議会

「巨大地震へ備えるための伊豆地域の道路啓開と道路整備のあり方について」

平成 26 年 8 月 8 日 (金)
アキシスカつらぎ大ホール (伊豆の国市)

8 月 8 日、伊豆の国市で、国土交通省や静岡県、伊豆地域各市町、下田・三島・沼津の各建設業協会などで構成する「巨大地震を想定した伊豆半島道路啓開検討協議会」による地震防災シンポジウムが開かれ、約 700 人が傍聴した。

開会あいさつで、佃弘巳伊東市長は伊豆縦貫自動車道の東駿河湾環状道路が開通したことに触れ「早くこの道路が下田までつながることが我々の願望であり伊豆地域が熱意をもって必要性を訴えなければならない」と訴えた。

静岡県の藤原危機報道監が「巨大地震・津波による被害想

定(静岡県第 4 次地震被害想定)」について、巨大地震発生時の伊豆半島への津波被害予想と緊急輸送路の復旧について紹介。「県では『津波対策アクションプログラム 2013』を策定し、10 年間で犠牲者を 8 割減少させる減災目標を立てている。



藤原危機報道監

まれにしか遭遇しない大きな災害を具体的にイメージできるかが防災対策の鍵であり、各機

関と連携し『公助』を進めていきたい」と話した。

国土交通省中部地方整備局の大庭道路部長は「道路をめぐる最近の話題」について道路啓開や橋梁メンテナンスについて紹介。東日本大震災で内陸部の高規格道路から沿岸部へ救援に向かったくしの歯作戦に触れ、

「復旧・復興のイメージも大切だが、道路啓開も非常に重要。これがうまくいかないと、救命もなかなかできない」と指摘した。

意見発表

意見発表では、南伊豆、松崎、西伊豆の各町長が登壇。

南伊豆町の梅本和熙町長は、

「南伊豆町にとって防災対策は地域住民はもとより観光面でも重要な要素であり、重要課題だと認識している。南伊豆町としてもハザードマップ作成や賀茂地区初の津波避難タワー建設避難路整備を進めてきた。今後

たい」と話した。

松崎町の齋藤文彦町長は「松崎町には高度な医療に対応できる病院がなく、高度な医療措置が必要な患者の早期措置が求められる救急医療の現場で大きな課題であり、移動時間短縮の面でも道路整備が強く望まれる」と話した。



藤田西伊豆町長



齋藤松崎町長



梅本南伊豆町長



西伊豆町の藤井武彦町長は、近年多発するゲリラ豪雨などの災害に触れ、「市町村単位の専門職員の確保が難しい現状であり国交省の T E C - F O R C E の活用は、早期の災害復旧に繋がると実感した」と話した。

大規模地震発生時には伊豆半島南部が 1 週間から 1 カ月間孤立する恐れがあることを挙げ、「観光地伊豆にとって、観光客が長い時間取り残されることに強い危惧を感じるざるを得ない。大量の救済物資の輸送やボラン

ティアなどの支援者の移動手段は車であり、『命の道』伊豆縦貫自動車道の早期全線開通とそれに伴うアクセス道路の整備を進めて頂き、緊急輸送路を確保し地域の孤立を阻止していただきたい」と 3 人の町長は力強く訴えた。

パネルディスカッション



パネルディスカッションでは、森延彦函南町長を司会とし楠山俊介下田市長、菊地豊伊豆市長、

相馬宏行河津町長、土屋龍太郎三島建設業協会副会長、国交省中部地方整備局沼津河川国道事務所の野坂周子所長が登壇。「伊豆地域における道路啓開と緊急輸送路の現状と課題」について意見を交わした。



野坂所長は「『道路啓開基本方針・伊豆版くしの歯作戦』では、被害発生後おおむね 3 日間で東名・新東名から沿岸部までの救命・救援ルートを確保するという大きな目標を掲げ、道路啓開の情報収集や実施には、地元建設業協会のみならず建設業者の方々の協力があって初めて成立する」と訴えた。

楠山市長は、海からの支援や観光客の避難を実現するため「強い港湾の整備をしていく必要がある」と述べ、「いちばん

力になるのは、地元の建設業者や消防団。建設会社数が減り、従業員・重機が減少するという厳しい環境下、平時に企業力をつけていただくことを行政として考えていかなければならない」と話した。



相馬町長は、災害時の孤立の懸念に触れ「関係機関の情報共有とスムーズな情報管理・伝達が重要だ」と話した。



土屋副会長は「河川や砂防・道路は我々建設業者が子供を育てるように、手塩にかけて作っ

たもの。我々の製造者責任を果たす行為が、災害対応であり、道路啓開である」と述べ、公共事業の減少に伴う建設業の衰退により風水害や雪氷対策に従事する者が減る「災害対応空白地域」という懸念を紹介し「伊豆も他人事ではない」と指摘。

「私たち建設業界は、自助努力で食いつながなければならぬ。地域を守る建設業の立場をぜひご理解いただきたい」と話した。



菊地市長は「伊豆半島7市7町は一隻の船に乗っている。伊

豆縦貫自動車道の天城越え区間の計画段階評価は、伊豆縦貫道を下田まで繋げるための、我々の共通的絶対的使命だ。何としても、絶対に勝ち取らなければならない。伊豆縦貫道から南伊豆や松崎方面へ行く道路も必要不可欠。そのために、少しでも早く老朽化・耐震化対策を進めなければならぬ」と話し「力を合わせて戦いましょう」と呼びかけた。



- 司会の森町長は、パネルディスカッションのまとめとして
- ① 道路啓開の重要性の確認と具体的取り組みの推進
 - ② 地域が一丸となった伊豆縦貫道の早期実現のための活動
 - ③ 東駿河湾環状道路、西区間の早期事業化、沼津市原々岡宮々下田までの全線早期開通
 - ④ 道路、橋梁、トンネル等の耐震化、長寿命化の着実な計画推進体制と事業費の確保
 - ⑤ 伊豆縦貫道を骨格として県東部、伊豆地域の道路ネットワークの早期整備促進
 - ⑥ 国・県・市町・自衛隊・消防・建設業・自主防災組織・警察等の広域連携の必要性の6ポイントを挙げ、「防災に地域が一丸となって取り組むことの大切さを再認識していただ

きたい。単独ではなにもできず、広域連携が不可欠だ。自助・公助・共助の3原則を守りつつ、防災・減災対策に努めなければならない」とまとめた。

閉会のあいさつで伊豆の国市の小野登志子市長は災害時の道路啓開や骨格となる高規格道路の重要性に改めて触れ「伊豆がひとつになることが重要」と呼びかけ、シンポジウムを締めくくった。



野坂所長と会長・事務長



現場ルポ

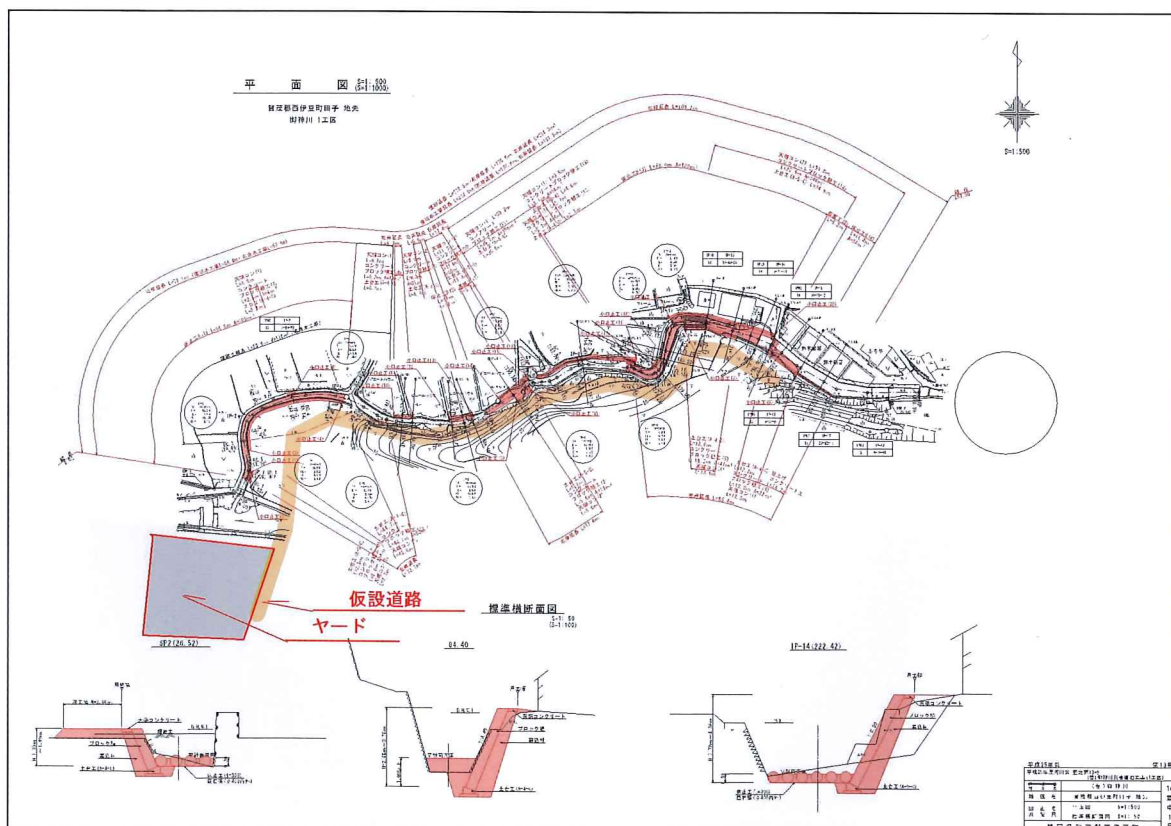


工事概要

建設工事名	平成25年度河川災 査定第19号(普) 御神川災害復旧工事(1工区)
工事箇所	賀茂郡西伊豆町田子地先
工 期	平成25年12月5日～平成26年10月31日
発注者	西伊豆町
施工者	株式会社 鈴木組
工事内容	復旧延長 L=212.0m コンクリートブロック積工 A=516m ² 小口止工 N=21箇所 床止工 A=285m ² 落差工 N=2箇所 仮設道路工 L=225m

平成25年、7月18日、西伊豆町を襲った集中豪雨により被災した、田子地先の小規模河川の復旧工事です。川幅が2.0mほどで、侵入できる道路もなく、しかも、300m間に14か所、被災箇所が、点在するという、厄介な現場であります。

掘削残土の搬出、資材の搬入等がこの工事の最大の課題でありました。そして、残土の仮置き、資材のストックヤードの確保も、必要不可欠でありました。そのため、下図に示したよう、施工箇所沿いに仮設道路を設け、また、隣接した休耕田を資材ヤードとして利用させてもらい、10月の竣工を目指し、現在、工事も順調に推移しています。



事業報告

理事会

・臨時理事会 6月6日開催
道路除草業務委託について協議し、受託方針を確認した。

委員会等

▽安全委員会
・5月21日開催
下田・南伊豆地区の現場安全パトロールを実施した後、第2回安全委員会を開催し、労働災害の状況等について協議した。
・6月23日開催
下田土木事務所との河津・東伊豆地区合同安全パトロールを実施した後、第3回安全委員会を開催し、労働災害の状況等、安全標語審査について協議した。

・7月31日開催
松崎・西伊豆地区の安全パトロールを実施した後、第4回委員会を開催し、労働災害の状況等、について協議した。
▽広報委員会
・8月6日開催
広報誌「伊豆海」第109号（10月1日発行）の編集計画の打合せを行った。
▽若手の会
・8月8日開催
『道路ふれあい月間』街頭キャンペーンを伊豆急下田駅と南伊豆町湯の花会館で実施し、会員7名が参加した。

土木施工管理技士会

・5月20日開催
定時総会を開催し、年間行事予定等の今年度の活動について協議した。
▽災害対策委員会
・8月28日開催

『家畜伝染病発生時の作業マニュアル(案)』説明に東部家畜保健衛生所が来所し、委員等4名が参加した。

大会・研修会 講習会等

▽土木・農林主要事業等説明会
・6月4日開催（文化会館小ホール）
参加者：71人
下田土木事務所・賀茂農林事務所の今年度主要事業、入札・契約制度、工事検査と安全管理について説明会を開催した。
▽第32回下田地区建設業労働災害防止大会
・8月11日開催（道の駅開国下田みなと）
参加者：60人

1 優良従業員表彰
(株)外岡組 鳥澤 靖
(株)繁美建材土木 新田 一雄
長田建設工業(株) 池野 利光
五味建設(株) 小沢 真
2 講話「安全衛生について」
三島労働基準監督署
3 講演「第4次地震被害想定と、今後の対応」 賀茂危機管理局
▽土木工事技術発表会
・9月10日開催（道の駅開国下田みなと）
参加者：56人
1 平成25年度 萩入沢通常砂防（防災・安全交付金）工事

鋼製えん堤工（CBB0型砂防えん堤）について

2 東海建設(株) 島崎 文之

平成24年度 治山(予防)敷根工事
コンクリート谷止工の施工について

3 河津建設(株) 佐野 行伸
平成24年度(国)135号“安心

・安全の道”緊急対策事業(災害防除)工事 受圧板設置を含むアンカー工について
(株)竹内組 石原 真吉

▽全国労働衛生週間説明会・講習会
・9月11日開催(市民文化会館)
参加者：56人

全国労働衛生週間の準備月間の9月、三島労働基準協会賀茂支部は三島労働基準監督署の協力により、同週間とメantalヘルス対策支援センター事業の説明会、及び医師による“病気の予兆と対策”の講習会を行った。

その他

▽型枠技能講習会
・6月20日 建設業会館
参加者：17人

▽CMセミナーDVD講習
・6月25日 建設業会館
参加者：5人

技術者のための基礎知識を学習
▽熱中症対策講習
・7月18日 建設業会館
参加者：13人

▽道路クリーン作戦
(主要幹線道路一斉清掃)
・8月26日

参加者：119人
道路愛護運動及び社会貢献の一環として実施してきている道路一斉清掃を本年度も実施。

▽県下一斉災害情報伝達訓練
・8月27日

県協会の災害対応力の向上を目指した災害情報伝達訓練が行われました。県協会からの伝達内容を当協会内市町を11ブロックに分け伝達し、全会員への所要時間を計測しました。当協会から11ブロックへの所要時間は7分、ブロック内の所要時間は最長で13分でした。

▽県・賀茂地域総合防災訓練
・8月31日
河津町において沼津河川国道事務所と下田土木事務所が主体の大規模な道路啓開訓練が行われた。津波によるがれきで道路が通行不能になったとの想定で、自衛隊によるがれきに埋まった車両からの救助活動や当協会の重機によるがれき撤去作業により、緊急車両の通行を確保する道路啓開活動を行った。

新入職員挨拶



田中 貴子

6月より採用になりました、田中です。約10年ぶりの事務職です。今はまだ会員名、お名前、声を憶えながら、事務の先輩にこれから仕事を教わっています。

早く皆様のご質問等に応えられるように努力してまいりますので、よろしくお願ひ致します。

ジオパーク 西伊豆エリア『黄金崎』



黄金崎 プロピライト(県指定天然記念物)

夕日を浴びて黄金色に輝く神秘的な岩肌（風化した安山岩が黄褐色に変化）
先端の岩肌が近年「馬の顔」に似ていると話題を集めている。

